



まえ おね い せき

# 前尾根遺跡

(第5次発掘調査)

平成9年度県営圃場整備事業原村  
西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

1998. 3

長野県原村教育委員会



## 序

八ヶ岳山麓に位置する原村では、基幹産業である農業の合理化と生産性向上が求められ、県営圃場整備事業が大規模に進められております。また、当地方は、古くから遺跡の多いことでも知られており、縄文のふるさととして注目を集めてきました。

本報告の前尾根遺跡は「平成9年度 県営圃場整備事業原村西部地区」内に存在していたことから諏訪地方事務所の委託、国・県から補助金交付を受けた原村教育委員会が緊急発掘調査を実施したものであります。

調査では、縄文時代・弥生時代・平安時代の複合遺跡であることがわかりました。縄文時代と平安時代の数多い堅穴住居址、小堅穴などを検出し、それらに伴う土器や石器などが出土しました。

調査にあたり、諏訪地方事務所土地改良課各位、柏木区及び実行委員会各位、地元地権者の方々のご理解・ご協力、長野県教育委員会のご指導をはじめ発掘にかかわる多くの皆様のご協力をに深甚なる謝意を表する次第であります。

発掘現場でご苦勞された多くの皆様の力で、失われていく貴重な文化財を記録に残すことができました。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程で、お世話いただいた関係各位に厚くお礼申しあげます。

平成10年3月

原村教育委員会  
教育長 大 館 宏

# 例 言

- 1 本書は「平成9年度県営劇場整備事業原村西部地区」に先立ち実施した長野県諏訪郡原村柏木に所在する前尾根遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫及び県費から発掘調査費補助金交付を受けた原村教育委員会が、平成9年4月1日から平成10年3月24日にかけて実施した。整理作業は、平成10年1月5日から3月24日まで行った。
- 3 発掘現場における遺構等の実測は石川美樹・久根種則・進藤郁代・津金喜美子・林史子、記録と写真撮影は石川が行った。
- 4 基準点測量・基準杭設置、航空撮影・測量、遺構測量は(株)写真測図研究所に委託した。
- 5 本書の執筆は、石川美樹の記録をもとに平出一治が行った。矛盾点は多々あるが概要(遺構一覧表)にとどめた。後日、報告書の作成を考えている。
- 6 本調査の出土遺物、記録類はすべて原村教育委員会で保管している。  
なお、本調査関係の資料には、20の原村遺跡番号を表記した。  
発掘調査から報告書作成にわたって、御指導・御助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

# 目 次

## 例言・目次

- I 発掘調査の経過
  - 1 発掘調査に至る経過
  - 2 調査組織
  - 3 発掘調査の経過(抄)
- II 遺跡の位置と環境
- III グリッド設定・土層・調査方法
- IV 遺構・遺物
- V まとめ  
報告書抄録

# I 発掘調査の経過

## 1 発掘調査に至る経過

平成5年度から実施されてきた「県営圃場整備事業原村西部地区」も5年目をむかえ、前尾根遺跡の保護については、平成8年11月11日に行なわれた「平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」で協議された。

遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいことであるが、原村の農業の将来を考えると農地の整備は必要なことである上に、農業者から強い要望もあり「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、平成9年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。出席者は長野県教育委員会文化財保護課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の4者である。

その後も協議を重ね調査日程等の確認をおこない、原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけ、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託をうけ、平成9年4月1日から平成10年3月24日にわたって緊急発掘調査を実施した。

## 2 調査組織

### 前尾根遺跡第5次発掘調査団名簿

調査団 団 長	大館 宏 (原村教育委員会教育長)						
調査担当者	石川 美樹						
調査参加者	朝日 治郎	吉川 幸子	久根 種則	小池 英男	小島 政雄		
	小林 喜重	小林 多美	小林 ミサ	小松 弘	五味 元		
	五味八代江	清水 了	清水 太助	清水千代子	清水 正進		
	進藤 郁代	田中 初一	津金喜美子	中村きみあ	西沢 寛人		
	林 史子	日達今朝江	宮坂とし子	森山 源司			

事務局 原村教育委員会 中村 正英 (教育次長) 津金 一臣 (庶務係長) 伊藤 佳江  
平出 一治 (文化財係長) 平林とし美 櫻井 秀雄 (県派遣主事)

### 3 発掘調査の経過（抄）

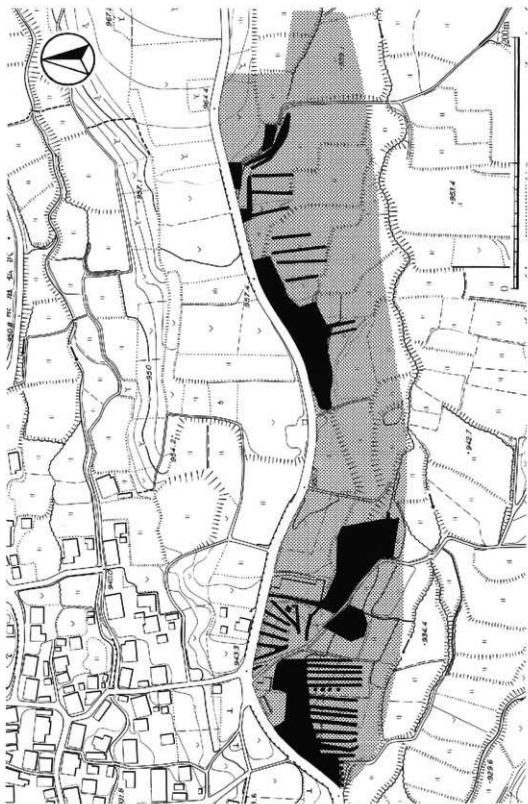
グリッド設定は行ったが、調査対象地区および自然地形から西地区と東地区に呼び習わしている。調査記録・整理作業等の記録にも西地区、東地区と記載している。本来なら設定した地区名を使用すべきであるが、ここでは便宜的に西地区、東地区を用いた。

#### 西地区

- 平成9年4月1日 発掘準備をはじめめる。
- 5月19日 トレンチ設定場を行い人力でトレンチ発掘をはじめめる。  
20日 重機でトレンチ掘りをはじめめる。  
21日 引き続き重機でトレンチ掘りを行い、人力でトレンチ内の調査を行い遺物・遺構の検出をはじめめる。
- 6月2日 重機で小竪穴を確認した範囲の表土剥ぎをはじめめる。  
10日 人力で表土剥ぎの終了したところから遺構検出作業をはじめめる。  
25日 検出した小竪穴の精査をはじめめる。人骨の出土した小竪穴があり近世から現代の墓塚が含まれていることが明らかになる。
- 7月9日 測量にあたり基準杭の打設をはじめめる。  
18日 検出した竪穴住居址の精査をはじめめる。  
24日 小竪穴の平面実測をはじめめる。  
30日 竪穴住居址の平面実測をはじめめる。
- 9月12日 片付けを行い西地区の調査を終了する。

#### 東地区

- 11月12日 重機で東地区の表土剥ぎをはじめめる。  
19日 人力で表土剥ぎの終了したところから遺構検出作業をはじめめる。  
21日 検出した竪穴住居址の精査をはじめめる。
- 12月10日 竪穴住居址の平面実測をはじめめる。
- 平成10年1月12日 雪かき作業を行う。作業は思うように進まない。  
23日 現場作業を中断し、整理作業をはじめめる。  
2月18日 現場作業を再開する。整理作業と並行して行い現場作業は短時間である。  
3月11日 空中写真撮影を行う。  
13日 埴甕など埴設土器の精査をはじめめる。  
24日 後片付け行い調査を終了する。



第1圖 釜淵調査範圍圖・地形圖 (1:3,000)

## II 遺跡の位置と環境

前尾根遺跡（原村遺跡番号20）は、長野県諏訪郡原村柏木に位置する。このあたりは八ヶ岳西麓のほぼ中央に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられる。それらの尾根上には縄文時代を中心とした数多い遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、小早川と大早川に北と南を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。本調査地点は尾根の肩部から南斜面にあたり、地目は普通畑と水田で地味は良い。標高は950m前後を測る。

本遺跡は早くから知られていたが「柏木上前尾根遺跡」「柏木向尾根遺跡」「前尾根遺跡」などと呼ばれ、1つの遺跡を2遺跡に数えるなど混乱が生じていたこともあり、昭和54年に現在の遺跡名の「前尾根遺跡」に改めた。

原村教育委員会は、昭和44年にリンゴ園の給水管敷設工事に先立ち第1次緊急発掘調査を実施し、縄文時代中期の竪穴住居址2軒を調査している。

昭和52・53・59年には村道改良事業に先立ち第2～4次緊急発掘調査を実施し、縄文時代中期の竪穴住居址69軒を検出した。道路改良中という限られた範囲の調査で完掘できた竪穴住居址は少ないが、原村を代表する顔面付釣手土器をはじめ数多い土器と石器を発見している。

## III グリッド設定・土層・調査方法

発掘調査の対象は、平成9年度県営園地整備事業原村西部地区に係る遺跡の全域におよんでいる。面的調査範囲の決定は、グリッド調査・トレンチ調査を併用した。表土剥ぎは重機で、遺構の検出と精査は人力で行い、遺物の取り上げは遺構別に行なった。ちなみに調査面積は9,675㎡である。

層序は、尾根上と緩やかな南斜面は比較的安定していたが、斜面のきつい箇所は黒色土の流失が容易に考えられる状態であった。層序の観察は比較的安定していた尾根上のグリッド壁面で行った。大まかな観察結果は次の通りである。

- |     |         |   |
|-----|---------|---|
| 第Ⅰ層 | 黒褐色土層   | 表土層・畑の耕作土で畑により8～15cmとまちまちである。                           |
| 第Ⅱ層 | 黒褐色土層   | 第Ⅰ層よりしまり15～20cmを計る。この層の厚さでローム層までの深さが変わる。基本的には南斜面も同様である。 |
| 第Ⅲ層 | 黄褐色土層   | しまり堅さは第Ⅱ層と同様であり、2～15cmを計るが尾根上の平坦面のみみられた。                |
| 第Ⅳ層 | 色土層     | いわゆるローム漸移層である。  |
| 第Ⅴ層 | ソフトローム層 |   |



## IV 遺構・遺物

東地区で検出した竪穴住居址の多くは、拡張や同心円状建て直しが行なわれていたうえに、重複は極めて複雑で新旧関係などを的確に記録することはできなかった。平面図や写真に炉址等は記録されているが、現場においては認定できなかった住居址もあるようである。遺構一覧表にはその可能性を記してある。遺構配置図でみるように、第2次発掘調査と本調査で検出した竪穴住居址に違いが生じた。両調査地点の地形を概観すると、尾根上の平坦部から南傾斜へ移行がはじまる肩部に辺り、北はローム層中に南は黒色土中に構築されたものが多く、すでに南側は流失していたことが大きな要因のようである。

遺構については、本書作成にあたり機械的に作業を進めた。今後の整理作業で変更が生じる可能性のあることを付記しておきたい。

### 1 縄文時代の竪穴住居址と遺物

検出した竪穴住居址は前期1軒、中期33軒、後期1軒である(第2図 付図)。

縄文時代前期の竪穴住居址は、西地区で検出した第80号住居址であるが、不明瞭な点が多い。中期の竪穴住居址は東地区の尾根肩部付近から南斜面で検出した。すでに南側が流失したものが多くみられた。平面形は隅丸方形を呈し4本柱のものが多く、中期後葉の曾利期が多いようであ



写真1 第113号竪穴住居址伏罏



写真2 第93号竪穴住居址鈎手土器



写真3 第96号住居址顔面把手



写真4 第109号竪穴住居址三角埴形土製品

る。埋甕は、第102号竪穴住居址に3点、第112号と第123号竪穴住居址に各1点ある。屋外埋甕Na2、Na3は、住居址に伴う可能性が高いものである。伏甕は、胴下半を欠損する深鉢の口縁部を床面に据え置いたもので、第113号住居址の東壁直下で出土した(写真1)。後期の竪穴住居址は、部分敷石であるが霧ヶ峰産出の鉄平石と地元の安山岩を使用している。

注目される出土遺物について若干触れてみたいが、水洗いと注記が終了したところであり多くを語ることはできない。注目される資料をあげると、第93号竪穴住居址出土のほぼ完形の釣手土器(写真2)、第96号竪穴住居址出土の内向き顔面把手(写真3)。土製品は、第109号竪穴住居址出土の三角壱形土製品(写真4)がある。第88号竪穴住居址の砥石は、座りが悪い安山岩に磨痕が顕著に認められる。磨痕面は石皿の皿部程の広さであるが、石皿の素材とは形状が異なるうえに磨痕面は皿状に深くなるものではなくツルツルであり、石皿の皿部とは明らかに違っている。第123号住居址の磨製石斧は、刃部はつぶれ基部を欠損するが超特大のものである。石鏃は14点出土しただけで極めて少ないようである。

## 2 弥生時代の遺物

弥生時代後期の土器破片1が出土した。

## 3 平安時代の竪穴住居址と遺物

検出した竪穴住居址は後期8軒である。南斜面のほぼ同等高線上に構築されており、当地方における典型的な集落址である。第107号竪穴住居址の墨書土器は解説不明である。

## 4 小竪穴

小竪穴は79基を数えるが、伴出遺物から帰属時期と性格が明らかかなものは、近世から現代の墓塚27基である。残り52基については確実なことはわかっていない。

# V まとめ

検出した遺構は縄文時代の住居址35軒、平安時代の住居址8軒、時代不詳の住居址7軒、小竪穴79基である。不手際で3月24日まで現場作業を行い冬期間は整理作業を同時に進めたため、いまだ整理途上でまとめることはできないが、遺跡の概略にふれまとめとした。

調査地点を西地区、東地区と呼んでいるが、西地区と東地区で検出した遺構分布には明らかに違いがみられ、西地区は前尾根西遺跡(原村遺跡番号18)の南斜面と考えた方がよいのかもしれない。出土した釣手土器、顔面把手、三角壱形土製品などは成果の1つであるが、縄文時代後期の部分敷石住居址の南は、未調査部分を残している。その調査範囲から遺跡南側の外縁部を把握することは不可能であり、現場作業の重要性を改めて教えられたように思っている。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

## 遺構一覽表

土器・石器については出土量の目安として次のように表示をした。概ね7割以上が遺存するものは個体数、4～6割位のは1/2個体と記載後に個体数。土器破片は整理箱（縦37.5×横67.5×深9cm）の数で示したが、概ね8分目を1とした雑駁なものである。整理箱1に満たないものは破片数を記載した。石器の集計も雑駁なもので、完形品も破損品も1点に数えた。黒曜石製の石器は定形石器以外を割片とした。

### 豊穴住居址

カッコ付けの数値は推定値を示す

番号	平面形	規模 cm		時期	遺構の特徴・出土遺物等
		長軸	短軸		
33				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
40	円形			縄文	第2次調査後出、阿心円状遺構で直し、重複。本調査では1軒の住居址と考えられ、遺構には第7号住居址と注記。第2次調査後出、阿心円状遺構で直し、重複。土器：縄文中期深鉢3、深鉢1/2個体3、中層破片整理箱9、土師器環状破片9、灰輪陶器破片11、石段：石盤1、石盤1、打製石斧10、棒状石斧1、石盤3、磨製石斧2、凹石・磨石頭25、石皿2、鎌の石1、台石（作業台）5、灰石2、黒曜石割片87、割片21。鉄製品：不明1。
41				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
42				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
45				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
47				縄文	第2次調査後出、アワ状炭化種子。本調査未確認。
51	不整形円形	(494)	(157)	縄文	第2次調査後出。平面ブランチからみて重複の可能性がある。土器：縄文中期破片109。石器：乳歯状石斧1、灰石1、黒曜石割片4、割片4
57				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
60				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
63				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
65				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
66				縄文	第2次調査後出、本調査未確認。
79	楕円形?	(300)	(360)	縄文	ブランチ指定、西側は段石、柱穴・ピット9、地床印。ピットと火床（地床印）から縄文と考えた。土器：縄文中期破片79、平安土師器高脚破片10、須恵器高脚破片1。石器：黒曜石割片2、割片1。

80	隅丸方形	(360)	(270)	16	縄文	小窓穴7、51と重畳、南側は埋込、ピット4、炉址は未検出。土器：縄文前期破片6。石器：黒曜石割片7。
81		(263)	(191)	10	平安	遺存量は稀少、不明確であるが北郷原の火床はカマド址?。遺物は皆無。
82					不詳	ピット8と火床2から住居址を想定。出土遺物は皆無で、火床は縄文時代炉址、平安時代カマド址か不明。遺物は皆無。
83	隅丸方形	430	404	27	平安	小窓穴30と重畳、東・北・西壁直下に周溝、主柱穴4、壁柱穴4、壁柱穴(厨仕切り)2、ピット3、東壁にカマドの火床(トレンチで確認)、焼土と放射状の炭化付(重木)、焼土は焼失が生じたようである。土器：土器器底1、灰燼破片3、菱網破片69、縄文中期破片18。石器：重石2、剥片1
84	隅丸方形	328	(235)	49	平安	東壁側は埋込、南側は遺存埋込下、ピット3、東壁側にカマドの火床痕か小窓が確認。土器：土器器底1、杯1/2器体1、灰燼破片60、菱網破片24、灰燼陶器破片3、縄文中期破片13。鉄製品：鎌1。石器：黒曜石割片6。
85	隅丸方形	(365)	(360)		平安	ピット8と火床1から住居址を想定。川土遺物は皆無であるがピットと火床の位置関係からカマド(東壁)と考えらる。
86	楕円形	(540)	(450)	30	縄文	第123号住居址と重畳、南は遺失、周溝は北壁直下、柱穴・ピット16。方形切地状石圍炉で、南辺以外の石は抜かれる。土器：縄文中期深鉢1/2器体1、釣手土器破片10、中期破片整理箱1。石器：打製石斧5、石匙1、乳棒状石斧1、局屋磨製石斧1、凹石・磨石類4、原石2、黒曜石割片39、剥片2。
87	円形	(360)	(250)	14	縄文	第86号住居址と重畳? 雨の多くは遺失、柱穴・ピット7、本址ピットの可読性が低い。土器：縄文中期深鉢1/2器体1、中期土器破片94。石器：横刃形石器1、凹石・磨石類1、黒曜石割片2、剥片1。
88	隅丸方形	618	602	77	縄文	第89・90・93号住居址、小窓穴129・130と重畳。周溝、主柱穴4、ピット、方形切地状石圍炉。土器：縄文中期深鉢3、深鉢1/2器体3、有孔磨付土器破片4、中期破片整理箱5。石器：石鏃3、石鏃3、スクレーパー3、打製石斧7、横刃形石器3、乳棒状石斧2、磨製石斧3、凹石・磨石類24、鎌の果石1、砥石1、黒曜石割片175、剥片18。
89	楕円形	(400)	(400)	27	縄文	第88・123号住居址と重畳、南は遺失、周溝は北壁直下、柱穴・ピット5、小窓穴120と重畳? 本址ピットの可読性が低い。土器：縄文中期深鉢147。石器：打製石斧1、黒曜石割片3
90	楕円形	570	(470)	60	縄文	第88号住居址・小窓穴117と重畳、本址が古い、南溝は遺失、周溝は壁直下、柱穴・ピット11。方形切地状石圍炉で、抜かれ石石は炉内の床面上に散乱。土器：縄文中期深鉢2、深鉢1/2器体1、釣手土器破片1、中期破片整理箱1。石器：打製石斧5、凹石・磨石類1、不明石器1、黒曜石割片15、剥片5。
91	楕円形	(400)	(340)		縄文	第92・101号住居址と重畳、方形石圍炉で雨冠の石が敷かれている。土器：縄文中期破片207。石器：凹石・磨石類7、砥石1、黒曜石割片2、剥片1。
92					縄文	詳細不明、第91・101号住居址と重畳。土器：縄文中期破片整理箱2。石器：打製石斧4、凹石・磨石類5、黒曜石割片19、剥片2。
93	隅丸方形	435	435	56	縄文	第88号住居址・小窓穴130と重畳、本址が古い、周溝は壁直下、主柱穴4、入口柱穴2、ピット2。方形石圍炉で東・北・西は重畳で破壊。土器：縄文中期深鉢2、深鉢1/2器体1、釣手土器1(器体2) 中期破片整理箱2、中期破片1。石器：打製石斧1、横刃形石器4、石鏃1、乳棒状石斧2、磨製石斧1、凹石・磨石類5、黒曜石割片20、チャート剥片2、剥片9。

94	楕円形	(330)	(185)	54	不詳	第96・99号住居址と重葺、南は流溝、柱穴・ピット5、甲は重葺で欠損?、それとも北岸路の境土がコマド址?、遺物の出土は豊富。
95	隅丸方形	(560)	(380)	85	平安	第127・135号住居址と重葺、南は流溝、南は流溝、柱穴・ピット8、東壁部にコマドの火床。土器：平安土師器片1、灰1/2個体1、灰燼燻片20、環状燻片22、須賀器燻片1、灰燼燻片1/2個体1、縄文中期破片25。鉄製品：鉄滓1。土製品：土器片利用土器片1。石器：打製石斧2、凹石・磨石2、原石1、黒曜石割片7、割片5。
96	円形	(475)	(412)	61	縄文	第105号住居址と重葺、北西壁上に小窓穴状の張り込み、南は流溝、柱穴・ピット7、土器燻片形石燻片。土器：縄文中期深鉢1、深鉢1/2個体2、内内き屋型把手1(浮草3)、中期破片燻片3。石器：打製石斧3、楕円形石斧2、凹石・磨石8、黒曜石燻片20、割片3。
97	隅丸方形	(460)	(210)	33	縄文	第102・127号住居址と重葺、南は流溝、柱穴・ピット9。土器：縄文中期破片163、平安土師器燻片1。石器：打製石斧2、楕円形石斧1、磨製石斧2、凹石・磨石強4、黒曜石燻片13、割片7。
98	楕円形	(350)	(202)	(20)	縄文	第94・99号住居址と重葺、南は流溝、南は流溝、柱穴・ピット4、円形石燻片で南辺の石なし。土器：縄文中期深鉢1、中期破片90、平安土師器燻片燻片2、灰燼燻片燻片3。石器：スクレーパー1、凹石・磨石頭1、黒曜石燻片15
99	隅丸方形	(185)	(90)	30	平安	第94・98号住居址と重葺、南は流溝、コマドは東北隅。土器：平安土師器燻片10、燻片破片9、縄文中期破片9。石器：黒曜石割片1。
100						欠書
101	隅丸方形?	330	(280)		縄文	第91・92号住居址と重葺、柱穴・ピット3、方形切形燻片石燻片で東・北・西辺の石なし。土器：縄文中期破片142、ミニチュア土師破片1。石器：石燻1、楕円形石斧1、石匙1、黒曜石割片1、割片2。
102	隅丸方形	513	(380)	37	縄文	第97・103号住居址、小窓穴126-128と重葺、南は流溝、南は流溝は土器燻片で燻片下で燻片燻片は2本、柱穴・ピット10、方形切形燻片石燻片で南東隅は小窓穴126が破壊。土器：縄文中期深鉢(燻片)3、中期破片214。石器：石燻1、打製石斧2、凹石・磨石頭5、黒曜石燻片11、割片5、丸石1。
103	楕円形	453	(215)	39	縄文	第102号住居址・小窓穴100と重葺、南は流溝、南は流溝は北西隅下、ピット1、円形石燻片で北辺は石なし。土器：縄文中期破片80。石器：凹石・磨石強1、黒曜石燻片1、割片1。
104	円形	(500)	(460)	54	縄文	南は流溝、南は流溝は北東下、柱穴・ピット12、甲は不明燻、床面は二段で重葺の可能性が高い。土器：縄文中期破片228。石器：石燻1、凹石・磨石強1、黒曜石割片23、割片1。
105	円形	(328)	(160)	32	縄文	第96号住居址と重葺、南は流溝、柱穴・ピット5、甲は未検出。
106	隅丸方形	390	(380)	48	縄文	第95号住居址でプランを想定。主柱穴4、ピット3、方形切形燻片石燻片で南・東辺の石は抜かれている。土器：縄文中期破片70。石器：黒曜石不明石斧1、黒曜石割片1
107	隅丸方形	(510)	(360)	54	平安	第109号住居址と重葺、本建が新、南は流溝、柱穴・ピット8、コマドは北壁。土器：平安土師器燻片2、破片1、環状燻片63、環状燻片29、解脫不明燻片1、灰燼燻片燻片20、縄文中期破片9。石器：砥石1、黒曜石割片2、割片1。
108	隅丸方形	(460)	(250)	24	平安	南は流溝、ピット1、性格不明焼土1。土器：平安土師器片8、環状燻片9、燻片燻片3、灰燼燻片3、砥石燻片1、燻片1/2個体2、環状燻片20。石器：石燻1、黒曜石燻片1、燻片1/2個体1、黒曜石割片3。

109	不整形	573	95	縄文	集107号住居址・小形穴108と重複。本址が旧、南は流失、柱穴・ピット9、柱穴は重複、円形石面片で東辺は石なし、石面片は北に欠、床面のレベル差とピットから米痕定住居址が容易に考えられる。土器：縄文中期深鉢4、深鉢1/2胴体2、中期破片整形片3、平安史前期器類破片5。土製品：三角塔形土製品1(写真4)。石器：スクレーパー2、打製石斧3、横刃形石斧1、磨製石斧2、局部磨製石斧1、凹石・磨石類9、石皿2、鏃の軀石1、台石(作業石)2、不整形石3、磨石1、黒曜石割片8、割片6。
110	楕円形	(410)	(300)	縄文	集120号住居址と重複。南東は流失、ピット9、貼床のみられたピット4、周溝は壁直下、方形切形塊状石面片で石は抜かれている。伊原郷にも火床と思われる焼土。土器：縄文中期深鉢2、中期破片19、台付土器破片7、釣手土器破片3、平安史前期器類破片1。石器：打製石斧4、横刃形石斧2、乳棒状石斧2、凹石・磨石類3、磨石2、鏃の軀石1、台石(作業石)1、凹石・磨石割片8、割片4。
111	楕円形	(286)	38	縄文	集124号住居址と重複。南は一部未調査、部分破石住居址、方形石面片。土器：縄文後期深鉢1、ミニチュア七割破片1、中・後期破片175。石器：磨製石斧1、凹石・磨石類1、黒曜石割片2、割片1。
112	隅丸方形	530	(500)	縄文	南は流失関係でプランを認定。周溝は二重、主柱穴4、南東・北東隅の柱穴は重複、方形切形塊状石面片。土器：縄文中期深鉢1、深鉢(磨滅)1、深鉢1/2胴体3、中期破片整理箱2。石器：打製石斧1、磨製石斧2、凹石・磨石類2、砥石1、黒曜石割片48、割片4。
113	楕円形	544	(453)	縄文	南は流失、周溝は北壁直下と西壁部の柱穴間、柱穴・ピット10、方形石面片、東壁直下(入口部)に伏溝(写真1)。土器：縄文中期深鉢(伏溝)1、中期破片整理箱1。石器：打製石斧1、横刃形石斧2、石皿1、乳棒状石斧1、凹石・磨石類1、黒曜石割片10、チャート割片1、割片2。
114					欠番
115	隅丸方形	381	(384)	平安	南は流失、周溝は北壁直下、ピット3、南と東壁部に焼土、東と西壁部の対応位置に集石人あめりなもか。土器：平安史前期器類1、甕1、不割破片9、磨製破片78、片輪陶器片1、陶磁破片8、縄文中期破片8。石器：砥石1、打製石斧1、凹石・磨石類1、黒曜石割片7、割片2
116	楕円形	(440)	(388)	縄文	詳細不明。土器：縄文中期ミニチュア土器1、中期破片211。石器：割片2。
117	円形	(390)	(240)	不詳	詳細不明。遺物は皆無。
118	隅丸方形?	(370)	(200)	不詳	詳細不明。遺物は皆無。
119				不詳	詳細不明。遺物は皆無。
120		(300)	(150)	縄文	集110号住居址と重複。南は流失、ピット5は壁間に並ぶ、ピットのあり方は集127号住居址に類似。土器：縄文中期深鉢片6。土製品：土割片利用の土皿1。
121					欠番
122	楕円形	(380)	360	縄文	南は流失、主柱穴4、ピット3、貼床のみられたピット2、地床石。土器：縄文中期深鉢1/2胴体1、中期破片21。石器：黒曜石割片2。

123	隅丸方形	(535)	504	48	縄文	第2次調査では未検出、第86・89号住居址と重複、垂直下は同層、柱穴・ピット11、周溝1、方形切形礎石住居址の石が収められている。切形に火床(炉灶)があり、ピットのあり方から未確定住居址の重複が考えられる。土器：縄文中期深鉢1、深鉢(皿蓋)、有孔野付土器破片1、中期破片整理箱3。石器：石鏃3、打製石斧4、板刃形石器2、磨製石斧2、凹石・磨石器9、磨石1、原石1、黒曜石剥片48、剥片7。
124	円形	(380)	(320)	16	縄文	第111号住居址と重複、南側は流失、柱穴・ピット4、炉は重複で欠損
125	隅丸方形	(419)	(360)	19	縄文	南・東・西側は流失、周溝は北側直下、主柱穴4、ピット11、方形切形礎石住居址で石は収められている。小笠穴123と重複?本址ピットの可能性が高い。土器：縄文中期破片56。石器：凹石・磨石器1、黒曜石剥片1。
126	楕円形	(560)	(480)	4	縄文	第128号住居址と重複?、南は流失、周溝は北側直下と距離30cm程度の2本、柱穴・ピット10、小笠穴126と重複?本址打製斧の可能性が高い、方形石器が黒曜石と思われるが石はない。土器：縄文中期破片33。石器：打製石斧1、板刃形石器2、剥片1。
127	円形?	(610)	(300)	26	縄文	第95・97号住居址と重複、南東は流失、柱穴・ピット10は階層に基ぶ、ピットのあり方は第120号住居址に類似。土器：縄文中期破片31、石器：チャート剥片1、剥片2
128					縄文	第126号住居址と重複?、壁は流失?、ピット12。土器：縄文中期土器破片30、石器：凹石・磨石器1、黒曜石剥片3、剥片1。
129	不整形円形	483	(350)		縄文	第2次調査では未検出、小形穴118と重複。柱穴・ピット10、円形石圍炉、二段の基壇、炉床と思われる燼土、平面プランから重複の可能性が高い。土器：縄文中期深鉢2、深鉢1/2解体4、有孔野付土器破片4、台付土器破片3、中期破片整理箱2。石器：石鏃1、打製石斧4、板刃形石器1、石器1、乳歯状石斧1、凹石・磨石器10、石皿1、黒曜石剥片22、剥片15。
130						欠番
131						欠番
132					縄文	検出位置・詳細不明。土器：縄文中期破片23。
133	不整形円形	300	249		不詳	小規模で柱穴・炉なし、第134号住居址に隣接・類似、住居と通う性格の遺構か。遺物は皆無。
134	不整形円形	289	240		不詳	小規模で柱穴・炉なし、第133号住居址に隣接・類似、住居と通う性格の遺構か。遺物は皆無。
135	隅丸方形				縄文	第95号住居址と重複、南側は流失、出土遺物は第95号住居址参照。

## 屋外埋蔵

番号	遺構の特 徴 ・ 出 土 遺 物 等
No.2	検出位置から住居址の重複と思われる。屋外埋蔵No.3と隣接し同じ方位の可能性がある。土器：縄文中期深鉢(皿蓋、割部のみ)1
No.3	検出位置から住居址の重複と思われる。屋外埋蔵No.2と隣接し同じ方位の可能性がある。土器：縄文中期深鉢(皿蓋、下脚部のみ)1

小竪穴

番号	平面形	規模			時期	遺物の特徴・出土遺物等
		長軸	短軸	深さ		
47	長方形	124	93	72	第80号住居址と重なり近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	
48	長方形	138	101	74	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	
49	長方形	89	56	30	近世～現代墓塚、横山面に隣2、人骨、甕水通管等	
50					欠番	
51	長方形	119	82	50	近世～現代墓塚、第80号住居址と重なり、人骨、甕水通管等	
52	長方形	125	99	44	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管、火打石等。石器：黒曜石割片4、チャート割片2	
53	長方形	124	95	92	近世～現代墓塚、人骨、火打石等	
54	長方形	124	83	52	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管、火打石等	
55	長方形	128	86	40	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	
56	長方形	121	96	95	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	
57	長方形	127	100	58	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	
58	不整形	305	278	37	場所は2段に落ち凸心、竪、東は礫石状、骨	
59	不整形	313	269	8	小竪穴62と重なり、竪	
60	隅丸長方形	606	499	16	竪、石器：黒曜石割片1、チャート割片1	
61	不整形門形	139	112	24		
62	不整形	(160)	232	5	小竪穴59と重なり	
63					欠番	
64	長方形	117	82	37	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	
65	長方形	93	83	32	近世～現代墓塚、人骨等	
66	長方形	102	66	29	近世～現代墓塚、人骨等	
67	長方形	126	92	81	近世～現代墓塚、人骨、甕水通管、磨管等	



68	長方形	114	79	22		近世～現代墓碑、人骨、寛永通寶等
69	長方形	133	94	64		近世～現代墓碑、人骨等
70	楕円形	78	60	25		近世～現代墓碑、人骨、寛永通寶等
71	不整形円形	87	54	38		近世～現代墓碑、人骨、寛永通寶等
72	隅丸三角形	75	63	28		不明瞭
73	不整形円形	130	96	41		
74						欠番
75	不整形円形	81	72	15		
76	楕円形	94	56	19		
77	楕円形	70	57	19		
78	円形	63	63	17		
79	円形	44	43	19		小窓六80と重複
80	楕円形	80	72	18		小窓六79と重複
81		227	113	29		尾根貫部で傾斜が強い、半圓プランは局部が円形で斜面は長方形。接合部に大なる石の石組と礎石、外縁に粘土、円形部に灰化材。墓治遺物の可塑性が高い
82	長楕円形	316	110	26		底面に小ピット7、陥し穴状であるが良く性格不明
83	不整形円形	127	84	42		土器：縄文中期破片4
84	楕円形	122	73	32		
85	楕円形	120	93	39		
86						欠番
87	円形	100	99	38		
88	円形	160	142	72		
89	円形	164	163	72		土器：縄文中期破片17
90	方形	42	35	31		第83号柱礎石と重複

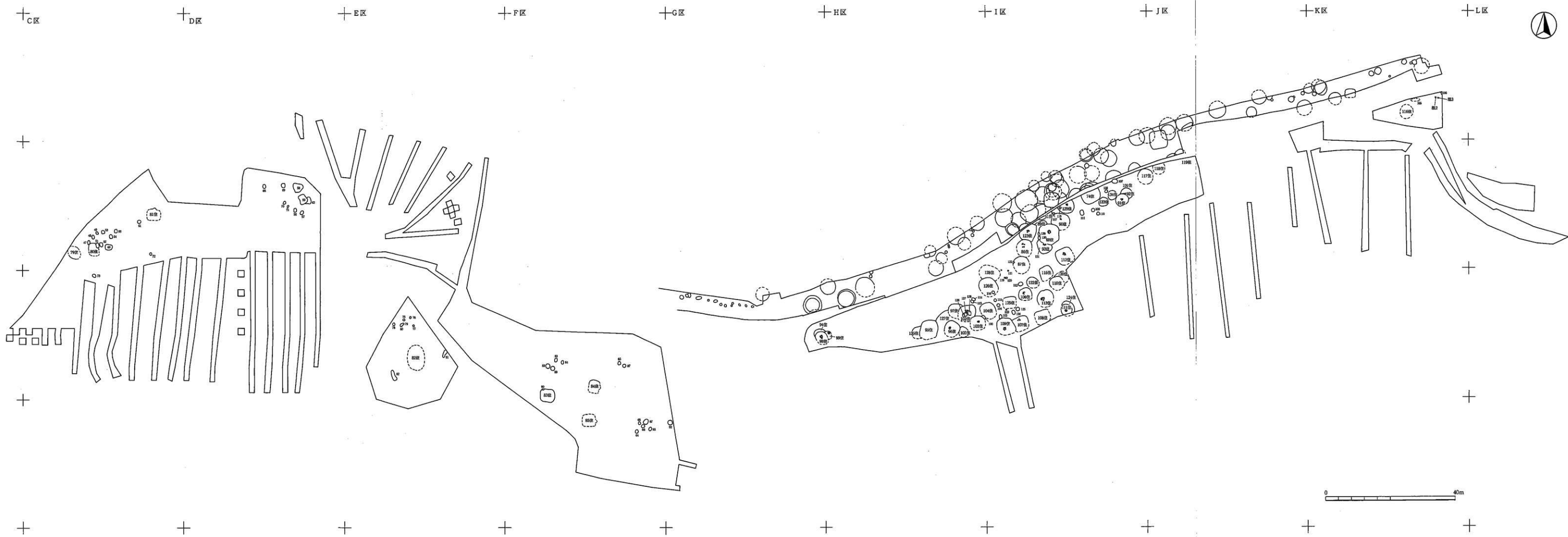
91						欠番	
92	不整形	172	167	64		レンズ状地構。土器：縄文中期後半片9。右器：黒曜石割片3	
93	楕円形	120	80	86		近世～現代遺構、人骨、寛永通貨、煙管等	
94	楕円形	105	85	29		検出位置不明	
95	不整形	108	108	8		検出位置不明	
96	円形	(142)	(71)	36		溝は流失 検出位置不明	
97						欠番 第134号住居址に改める	
98	不整形	(103)	73			検出位置不明。近世～現代遺構、人骨等	
99	長方形	(97)	87			検出位置不明。近世～現代遺構、人骨等	
100	円形	129	(105)	60		第103号住居址と重複 第104号住と重複?	
101						欠番 6次	
102						欠番 6次	
103	長方形	147	95	94		第109号住居と重複? 近世～現代遺構。	
104	円形	104	94	47			
105	長楕円形	298	80			不明瞭。土器：縄文中期後半片6	
106	楕円形	(89)	(53)			不明瞭 埋溝2基が隣接しており住居址ビットの可能性が高い。	
107	不整形	152	(135)	36			
108	円形	96	81	41			
109	楕円形	96	92	30			
110	楕円形	94	70	25			
111	長方形	145	107	142			
112	不整形	146	113	62		北壁は二段	
113	不整形	115	94	48		小壁穴114と重複。土器：縄文中期後半片3	
114	楕円形	121	(70)	27		小壁穴113と重複	

115	不整楕円形	101	90	48			
116	円形	108	101	60			第128号住居址の貯蔵穴の可能性が高い。
117	不整方形	58	57	17			
118	楕円形	60	45	16			第129号住居址のピットの可能性が高い。
119	楕円形	40	36	17			
120	楕円形	46	37	13			
121	楕円形	44	33	9			
122	楕円形	46	30	27			第87号住居址のピットの可能性が高い。
123	隅丸方形	42	37	30			第125号住居址のピットの可能性が高い。
124	不整長方形	129	102	162			近世～現代基壇
125	長方形	123	105	140			近世～現代基壇
126	長方形	130	100	(116)			近世～現代基壇 第102号住居址と重畳、本址が新しい。
127	不整長方形	135	105	(98)			近世～現代基壇 第102号住居址・小彫穴128と重畳、本址が新しい。
128	長方形	95	(59)				近世～現代基壇？ 第102号住居址・小彫穴127と重畳。
129	楕円形	109	(38)				第88号住居址・小彫穴130と重畳
130	楕円形	(128)	(53)				第88・93号住居址・小彫穴129と重畳
131	長方形	71	46				第93号住居址と重畳

## 遺構外

### 出土遺物等

土器：縄文中期深鉢2、深鉢1/2個体3、有孔器付土器破片2、縄文前期～晩新石器時代器類13(前期・後期はわずかず)、弥生土器破片1、平安土器器底瓦破片44、要領破片22、須恵器坏破片11、弥生陶器残片破片8、土製品：縄文段階蓋1。石器：石鏃4、石錐2、スクレーパー6、石槌1、打錐石斧43、横刃形石錐17、石匙3、乳棒状石斧1、磨製石斧3、局部磨製斧2、凹石・磨石類31、敲石1、石皿3、くま形石器1、不明石器1、不明石器17、馬車石器16、原石5、黒曜石破片314、チャート薄片14、薄片71、砥石2。鉄製品：不明3、鉄滓1



第2图 遗址平面图 (1:600)

# 報告書抄録

ふりがな	まえおねいせき							
書名	前尾根遺跡（第5次発掘調査）							
副書名	平成9年度 県営園場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	45							
編著者名	平山 一治							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL.0266-79-2111							
発行年月日	西暦 1998年03月							
所収遺跡	所在地	コ ー ド		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
前尾根	長野県諏訪郡 原村 柏木	3637	20	35度 57分 48秒	138度 12分 28秒	19970401 ) 19980324	9,675.0	平成9年度 県営 園場整備事業原村 西部地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
前尾根	集落跡	縄文時代 前期 中期 後期  平安時代 後期 時代不詳 近世～現代	竪穴住居址 1軒 竪穴住居址 35基 竪穴住居址 1軒 小竪穴 52基 (時代不詳を含む)	縄文時代 前期～後期土器、石器、土製品は三角罫形土製品 弥生時代 後期土器片 平安時代 土師器、須恵器、灰釉陶器 近世～現代 人骨、寛永通宝		縄文時代中期の大集落址であることを再認識する。釣手土器、顔面把手、三角罫形土製品は注目されよう。 村内では遺跡数が少ない弥生時代後期の土器破片の発見は特記できる。		

原村の埋蔵文化財45

## 前尾根遺跡（第5次発掘調査）

平成9年度県営園場整備事業原村  
西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成10年3月

発行 原村教育委員会

長野県諏訪郡原村

印刷 もえぎ企画書籍